

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、24～27℃台を示し、平年並み～やや高めでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——シケの日が多く出漁日数が少なかった。西彼地区では、マイワシなどが1日1統当たり10トンの水揚げで、前週の67%（前年並み）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり0.4トンの水揚げで、前週の40%（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり11トンの水揚げで、前週の79%（前年を下回った）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり14kgの水揚げで、前週を上回った（前年並み）。壱岐勝本地区では1日当たり114kgの水揚げで、前週を上回った（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり99kgの水揚げで、前週の3.5倍（前年を上回った）。壱岐勝本地区では1日当たり270kgの水揚げで、前週の51%（前年を下回った）。
- 定置網——五島有川地区では、シイラなどが1日1統当たり963kgの水揚げ。五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり969kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり88kgの水揚げ。対馬東岸地区では、タチウオなどが1日1統当たり184kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり364kgの水揚げで、前週の1.5倍（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/5～10/10の6日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、大和堆周辺及び隠岐諸島東側で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～山陰沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）では5日延48隻、総計7,226箱、1航海最高366箱、平均150.5箱。スルメイカを漁獲、魚体は20～30入。なお、赤イカは北太平洋で操業。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>